

株式会社 ニッキ  
会社説明会資料  
2017年9月27日



Q1

ニッキって  
どんな会社？

Q2

ニッキの  
これまでの  
歩みは？

Q3

業界での  
ポジションは？

Q4

ニッキの  
描く未来は？

Q5

ニッキの  
株主還元策は？

Q6

和田社長って  
どんな人？

Q1

# ニッキってどんな会社？

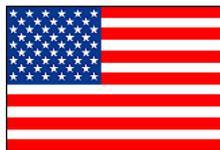
市場： 東証2部  
証券コード：6042

主に **天然・LPガス** を燃料とするエンジンの

**燃料供給システム** メーカーです

**環境に大きく貢献** しています

本社は厚木市 海外6カ所に拠点



アメリカ



中国



インド



タイ



韓国



台湾

# 燃料供給システムとは？

ガソリンやガスなどを効率的に  
エンジンへ供給する仕組み



# ガス機器 製品



最適混合

ECU



圧力制御  
(調圧)

レギュレータ



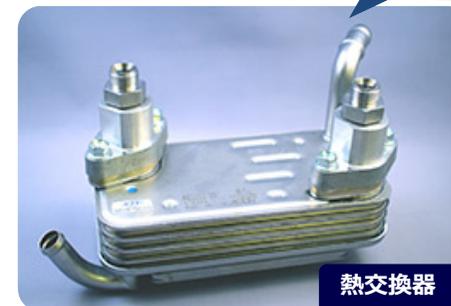
燃料噴射

インジェクタ



不純物  
排除

フィルタ



その他

熱交換器

# 汎用機器 製品

The image displays three engine components with their respective functions:

- 機能集約型スロットルボディ (Integrated Function Throttle Body):** Callouts include 圧力計測 (Pressure measurement), 燃料噴射 (Fuel injection), and 空気量調整 (Air flow adjustment).
- 小型ECU (Small ECU):** Callout is 最適混合 (Optimal mixture).
- 燃料ポンプモジュール (Fuel Pump Module):** Callouts include 燃料供給 (Fuel supply) and 圧力制御 (調圧) (Pressure control).



芝刈り機

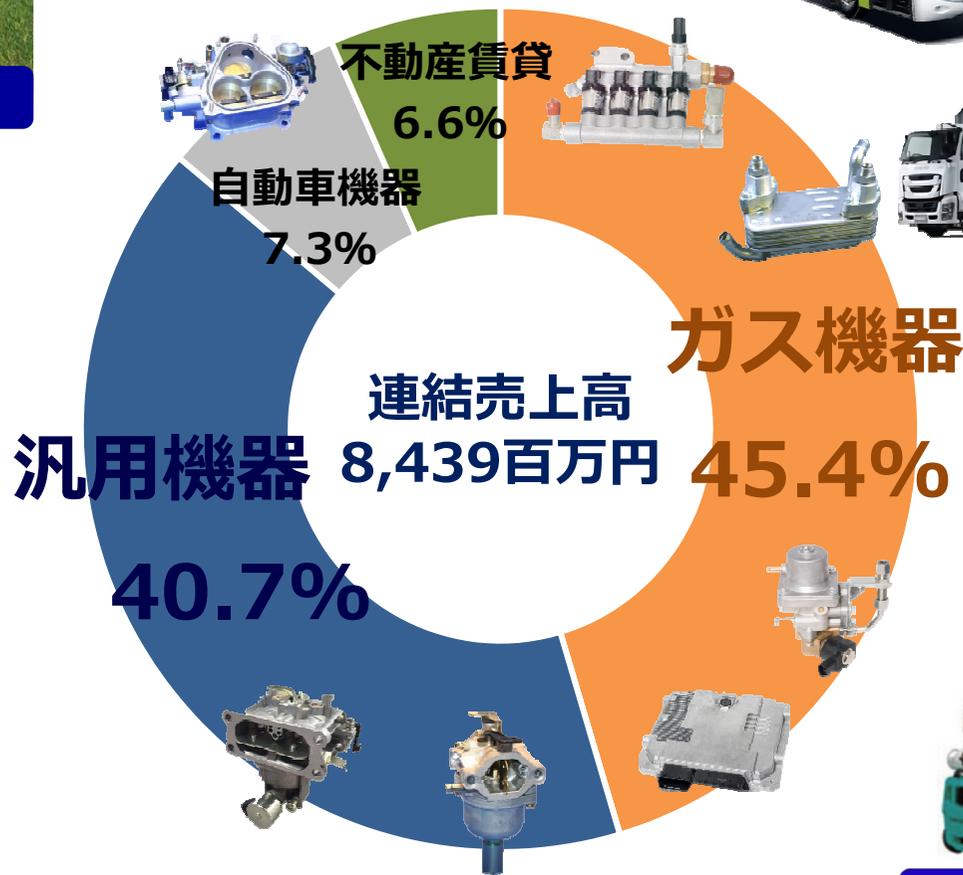


発電機



ボート (小型船舶)

### 事業別売上高構成比 【2017年3月期】



大型トラック・バス

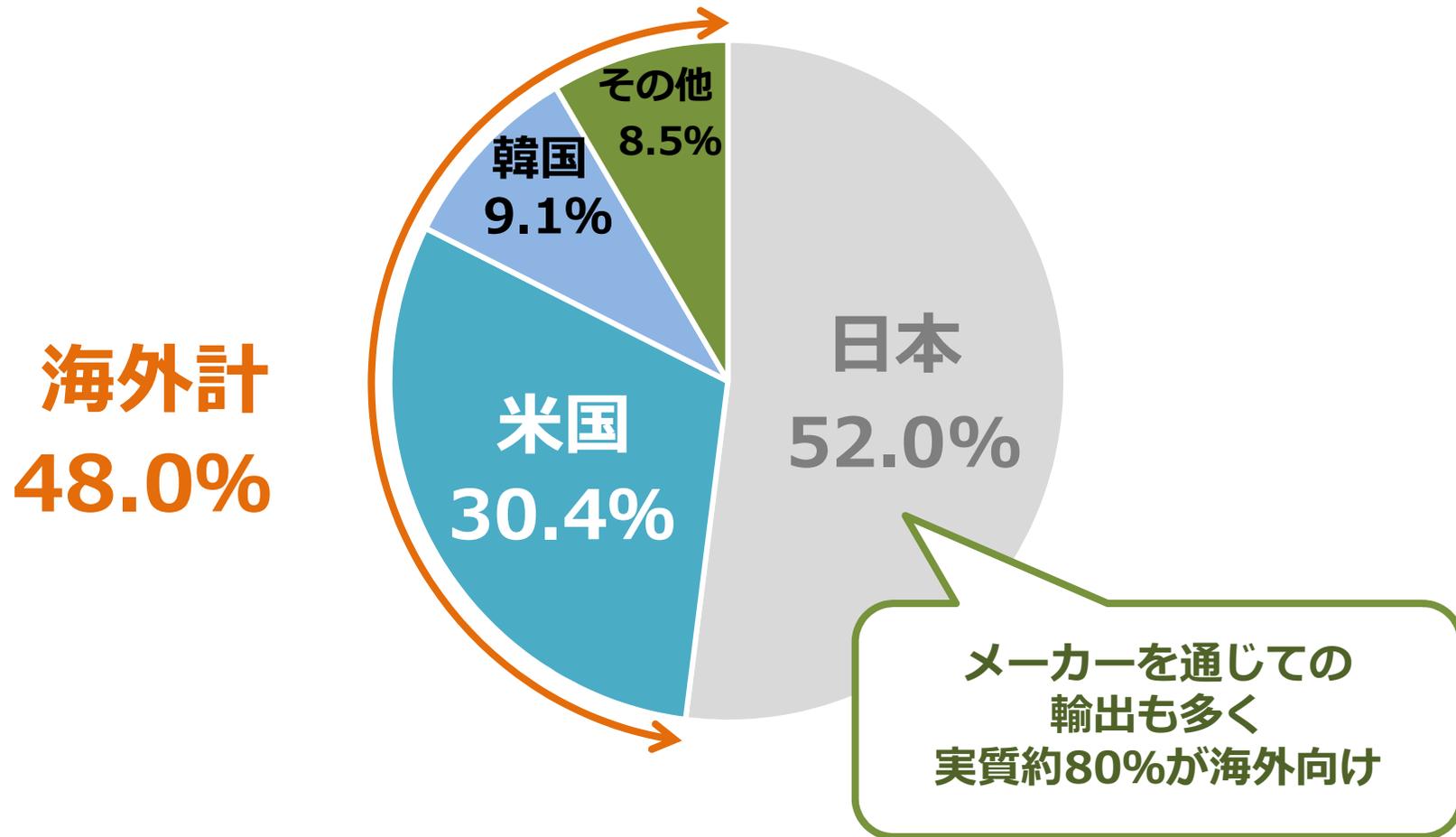


乗用車・バン・トラック



フォークリフト

地域別売上高構成比  
(2017年3月期)



Q2

## ニッキのこれまでの歩みは？

(伝統から革新へ)

1932年に日本初の気化器メーカーとして創業

1930年代

1940年代

1950年代



第1号キャブレタ  
NV-42



戦闘機用キャブレタ  
中島飛行機向け  
2連式70乙型



ダットサン用  
D37Eキャブレタ

【黎明期】  
機械式技術の確立・成熟

# 外部環境の変化に 技術開発力 に対応

1960年代



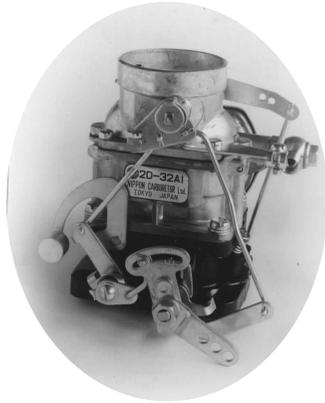
1970年代



1980年代



1990年代



ダットサン  
ブルーバード用  
キャブレタ



プリンス  
グランドグロリア用  
キャブレタ



三信工業  
大型船外機用  
3連キャブレタ



Briggs&Stratton  
M-28用 G型  
キャブレタ

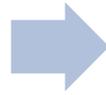
【発展期】

モータリゼーションへの対応

【転換期】

# ガソリン から 天然ガス へ

2000年代～



近年



天然ガス自動車用  
2段減圧レギュレータ  
(噴射システム用)



天然ガス自動車用  
シングルポイント  
インジェクタ



天然ガスエンジン用  
電子制御ユニット  
(ECU)



天然ガス自動車用  
1段減圧レギュレータ  
(噴射システム用)



天然ガス自動車用  
トップフィード  
インジェクタ

## 【変革期】 ガス分野における差別化技術の確立

## 業界でのポジションは？

- 
- ① **ガス専用（独自設計）部品**を製造  
(ガソリン部品からの転用ではない)
  - ② 単品部品ではなく**システム供給**が可能
  - ③ **高度な制御技術システム** (ECUのソフト)
  - ④ 独立系であり、**機動的かつ幅広い取引推進**が可能

## 日系燃料供給システムメーカーとの比較（ガス機器）

	ECU	インジェクタ	レギュレータ	
	注1 ○	注2 ○	注3 ○	天然ガス自動車向けに注力し、ガソリン部品からの転用ではない独自設計のガス専用部品を製造。
A社	△	△		燃料噴射システムだけではなく、幅広く自動車部品を供給。
B社	△	△	○	四輪が中心だが二輪の燃料噴射システムも供給。
C社		△	○	燃料ポンプモジュール、スロットルボディが主力製品。
D社				二輪の燃料噴射システムが主力。

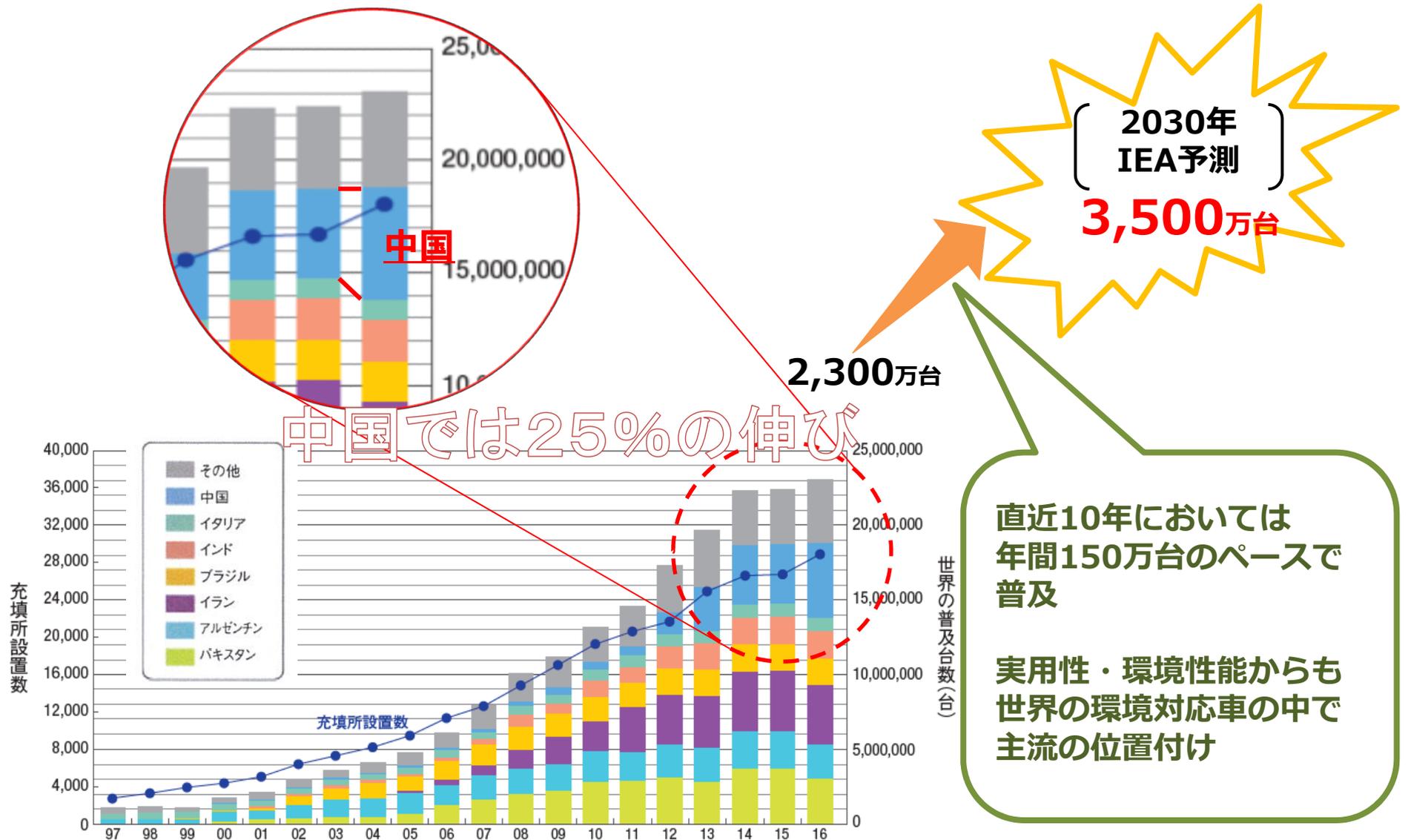
### 他社の追隨を許さない性能を実現！！

注1 ECU : ガスエンジン制御に特化。最適エンジン制御を実現。

注2 インジェクタ : 大型車へも対応可能な大流量設計。

注3 レギュレータ : 大型車もカバーする大容量と精密制御を両立。

# マーケットの成長性 世界の天然ガス自動車普及台数



出所：一般社団法人 日本ガス協会、天然ガス自動車総合カタログ2017

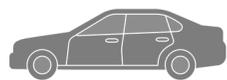
# 天然ガス自動車国別普及台数・マーケット進出時期

	国名	台数 (2017年2月)	当社製品納入時期				国名	台数 (2017年2月)	当社製品納入時期		
			2014	2015	2016				2014	2015	2016
1	イラン	4,068,632				14	エジプト	207,617			
2	中国	3,994,350				15	ペルー	183,786			
3	パキスタン	3,700,000				16	ウクライナ	170,000			
4	アルゼンチン	2,487,349				17	アメリカ	150,000			
5	インド	1,800,000				18	ドイツ	98,172			
6	ブラジル	1,781,102				19	ロシア	90,050			
7	イタリア	885,300				20	ベネズエラ	90,000			
8	コロンビア	500,000				21	ジョージア	80,600			
9	タイ	468,845				22	ブルガリア	61,320			
10	ウズベキスタン	450,000				23	マレーシア	55,999			
11	ボリビア	300,000				24	スウェーデン	46,715			
12	アルメニア	244,000				25	日本	44,676			
13	バングラデシュ	220,000				26	その他	132,283			
合計								22,335,773			

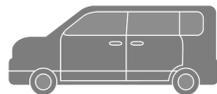
台数は「The Gas Vehicles Report」2016年1月号  
「Asian NGV Communications」2017年2月号 より

※数量は、端数をまとめた大まかな参考の場合もある

# マーケットニーズ対応・商品ラインナップ



乗用車



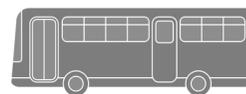
小型商用車



フォークリフト



中大型トラック



中大型バス



産業用エンジン



LNG  
液化天然ガス



CNG  
圧縮天然ガス



LPG  
LPガス



LPG  
LPガス

## ニッキが描く未来は？

➔ **外部環境の変化・顧客ニーズ**  
を先取りし差別化を行い  
**増収・増益決算** を継続していく

外部環境変化の  
活用・取込み

上流工程への  
関与を拡大

価格ニーズを捉えた  
ボリュームゾーン  
への展開

技術革新による  
規制強化への対応

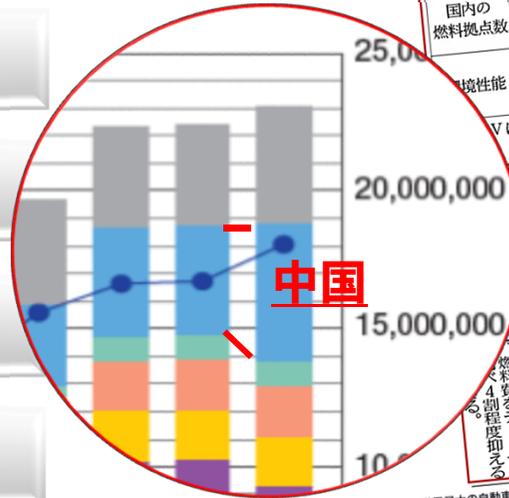
ガス機器事業の  
地理的拡大

更なる  
コスト低減

# 外部環境の変化 ～脱ガソリン・脱ディーゼルの動向～

- フランス：2040年
- イギリス：2040年
- ドイツ：2030年
- インド：2030年
- 中国：20XX年
- 日本：2030年以降

乗用車 → EV  
 大型車 → 天然ガス車



商用車でもディーゼル車に代わるエコカー開発が加速している

	ディーゼル	EV	天然ガス
価格(万円)	2000	未定	1900~2500
航続距離(キロ)	600~900	100	1000
国内の燃料拠点数	約3万1000(ガソリンスタンド)	2カ所程度	270
環境性能	-	排出ガスゼロ	対ディーゼル比でCO <sub>2</sub> は1~3割減

**伊大手** 天然ガス車 日本で航続距離を2倍に

天然ガス車は、ガソリン車に比べて航続距離が2倍に伸びる。また、排出ガスもゼロになる。天然ガス車は、ガソリン車に比べて航続距離が2倍に伸びる。また、排出ガスもゼロになる。天然ガス車は、ガソリン車に比べて航続距離が2倍に伸びる。また、排出ガスもゼロになる。

## トラックも脱ディーゼル

トラックにも「脱ディーゼル」の動きが出てきた。イタリアの商用車大手、イベコは天然ガスで動くトラックを日本市場に導入する。イベコは天然ガスで動くトラックを日本市場に導入する。イベコは天然ガスで動くトラックを日本市場に導入する。

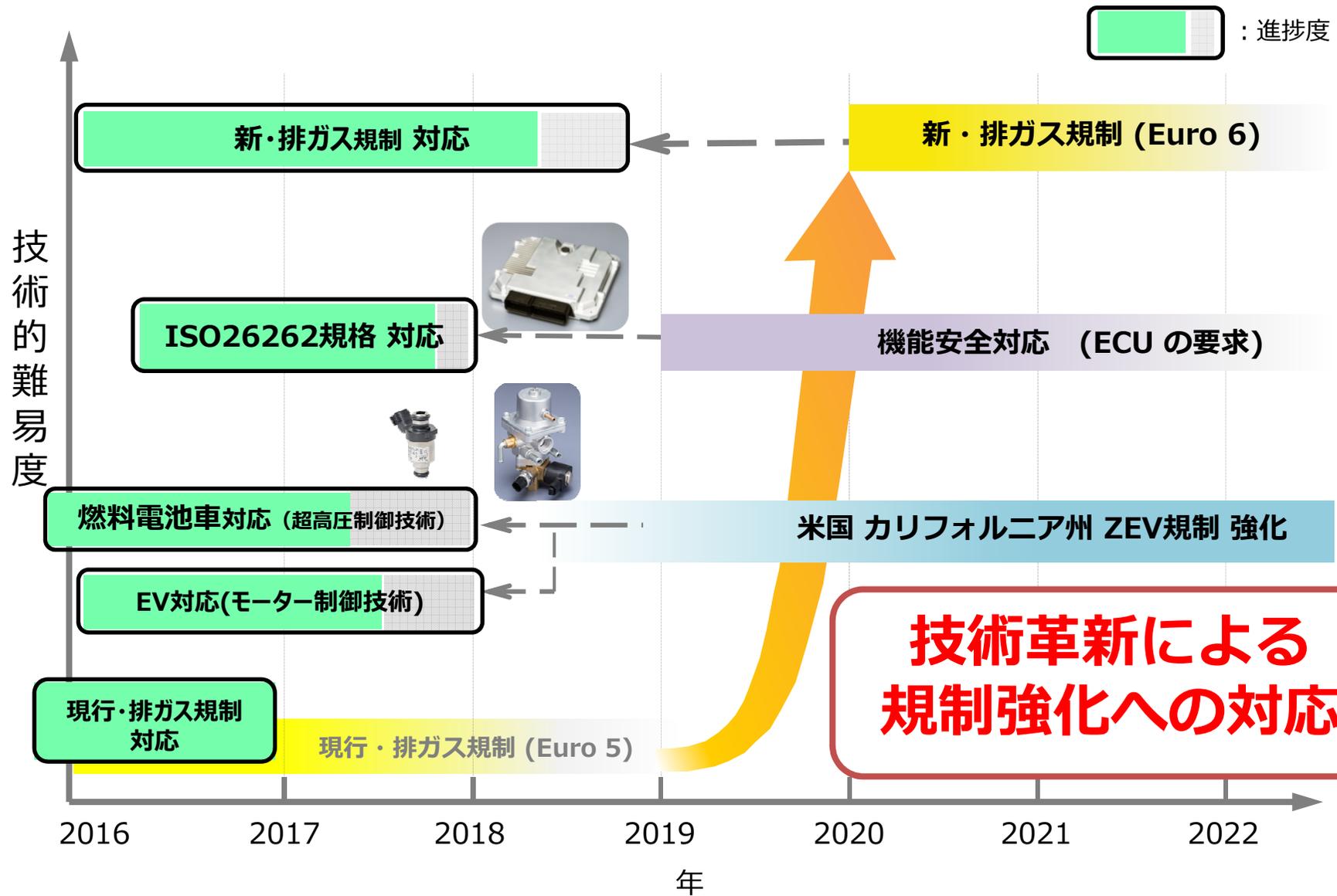


イベコは天然ガスのトラックを欧州を中心に展開している



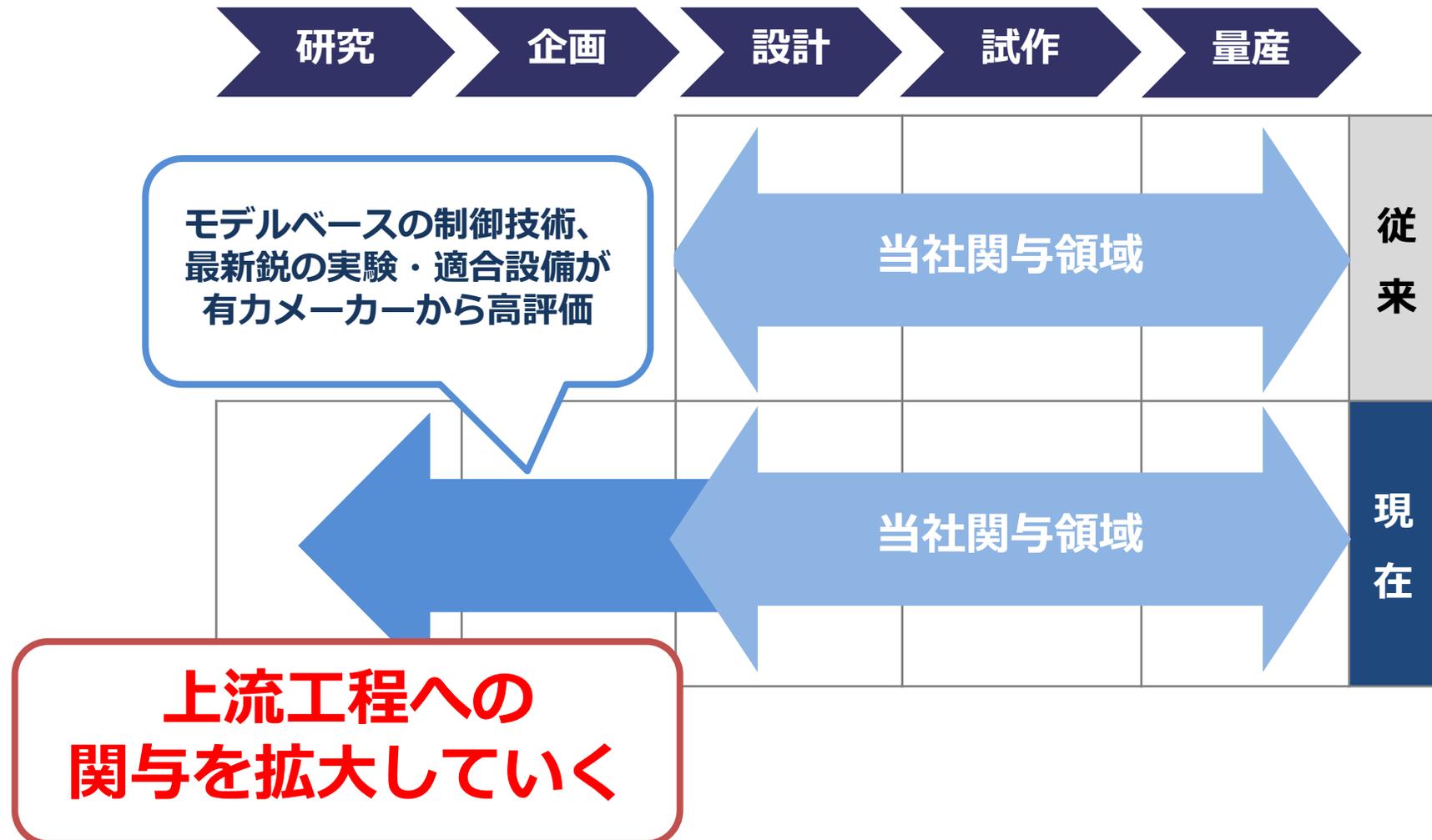
## 中国、ガソリン車禁止へ 英仏に追随、時期検討

中国は世界最大の自動車市場で成長が速くEVへの転換を促進する規制。中国は世界最大の自動車市場で成長が速くEVへの転換を促進する規制。中国は世界最大の自動車市場で成長が速くEVへの転換を促進する規制。

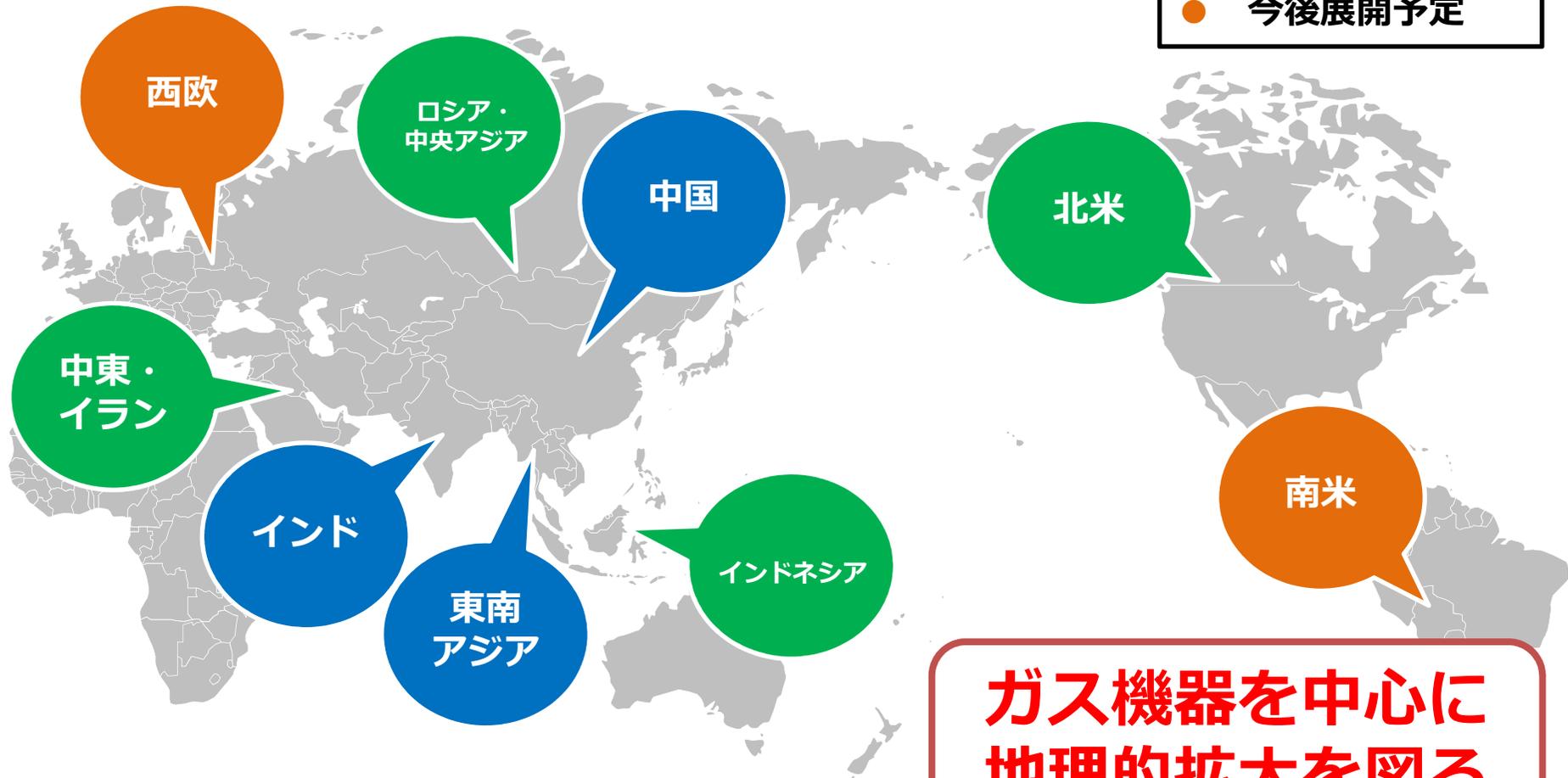


# 顧客ニーズへの先取り対応

## < 自動車・トラックメーカーの開発工程 >

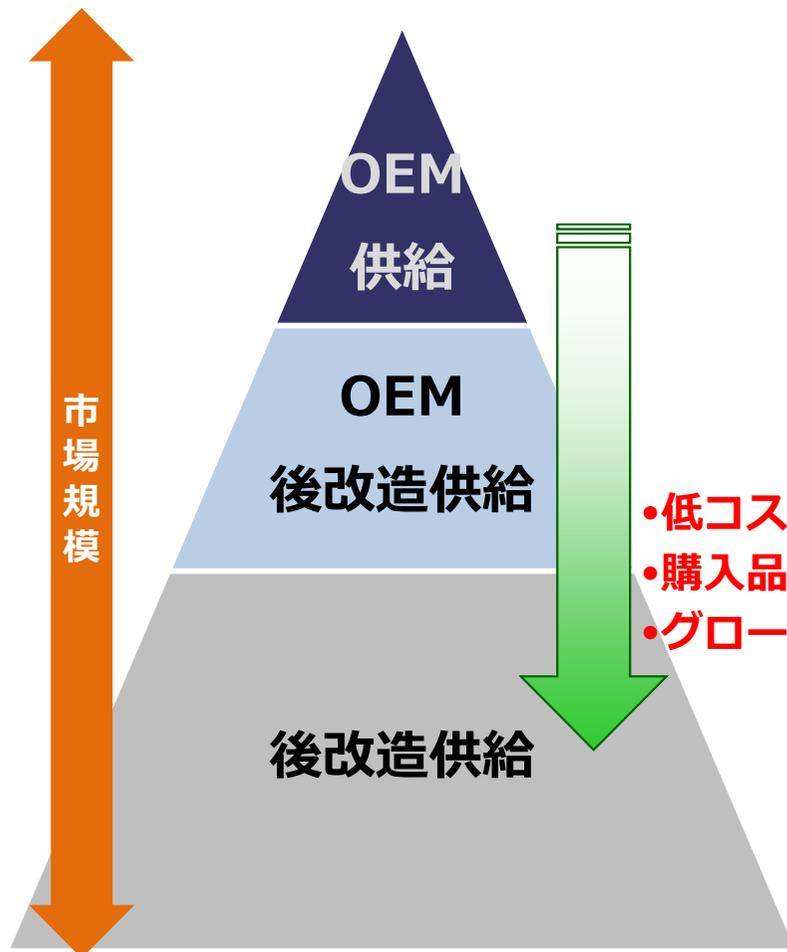


- 既展開
- 現在展開中
- 今後展開予定



**ガス機器を中心に  
地理的拡大を図る**

## ボリュームゾーンへの展開



### OEM供給：

- 自動車メーカーの生産ライン用として製品の販売を行う
- 正規ラインナップとして設定

### OEM後改造供給：

- 自動車メーカーの監修した改造車用の製品販売を行う
- 正規販売店オプションとして設定

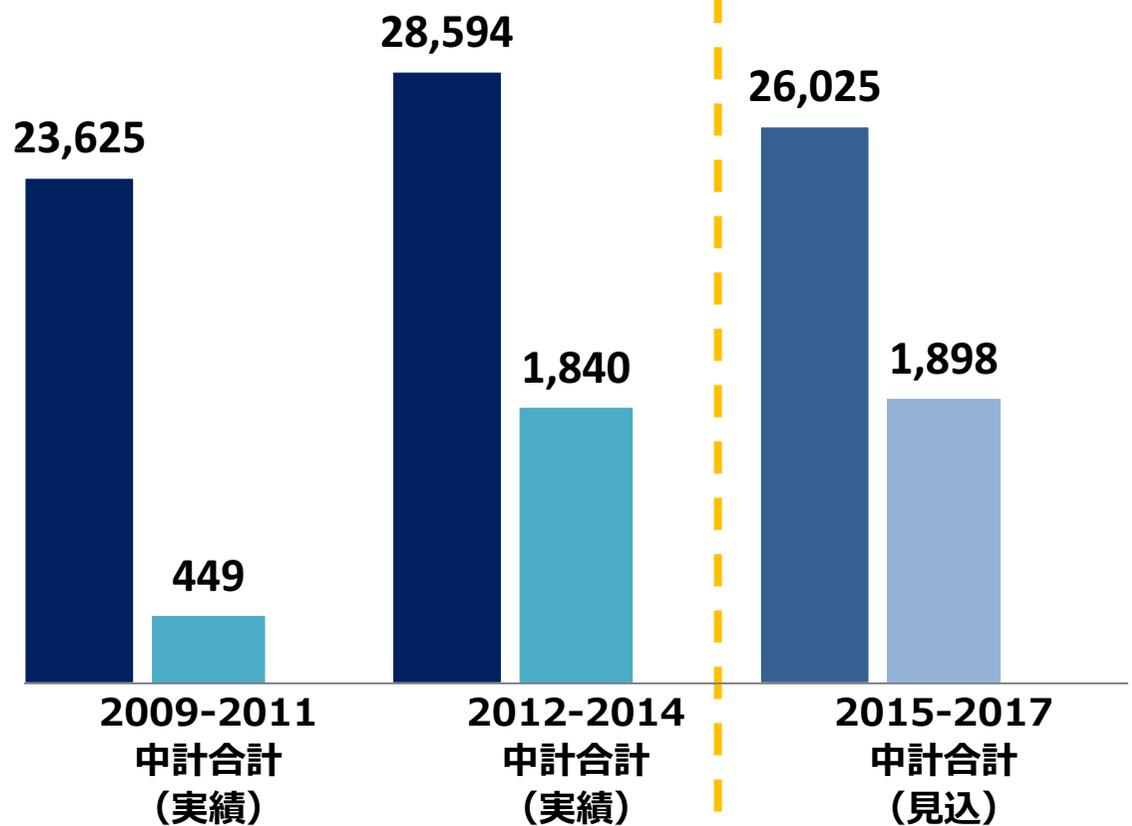
### 後改造供給：

- 一般修理工場（改造専門業者含）向けの改造車用の製品販売を行う
- 車両はユーザーが持込み改造を施す

# 中期経営計画の進捗状況

■ 売上高    ■ 営業利益

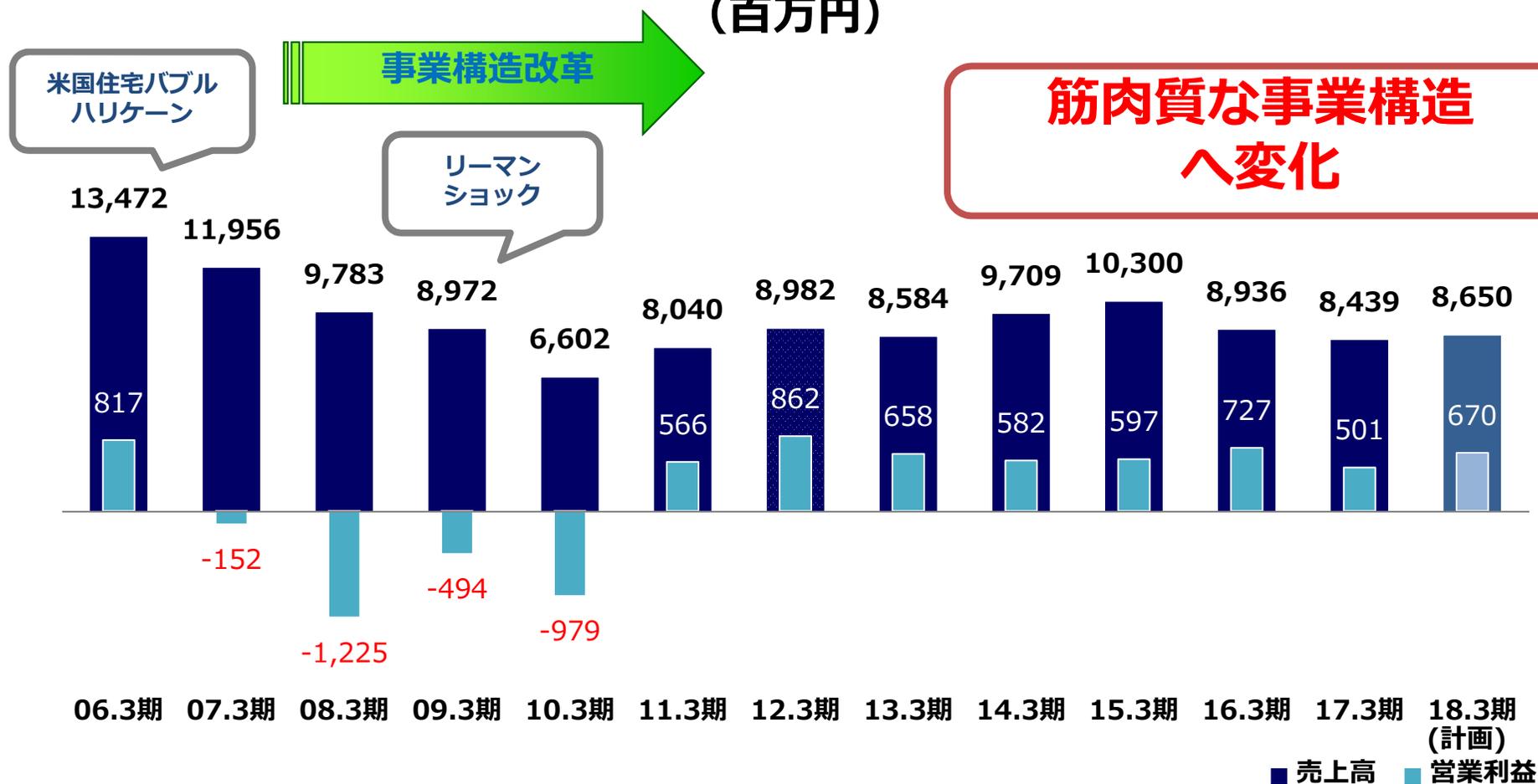
(単位：百万円)



## <重点方針・施策>

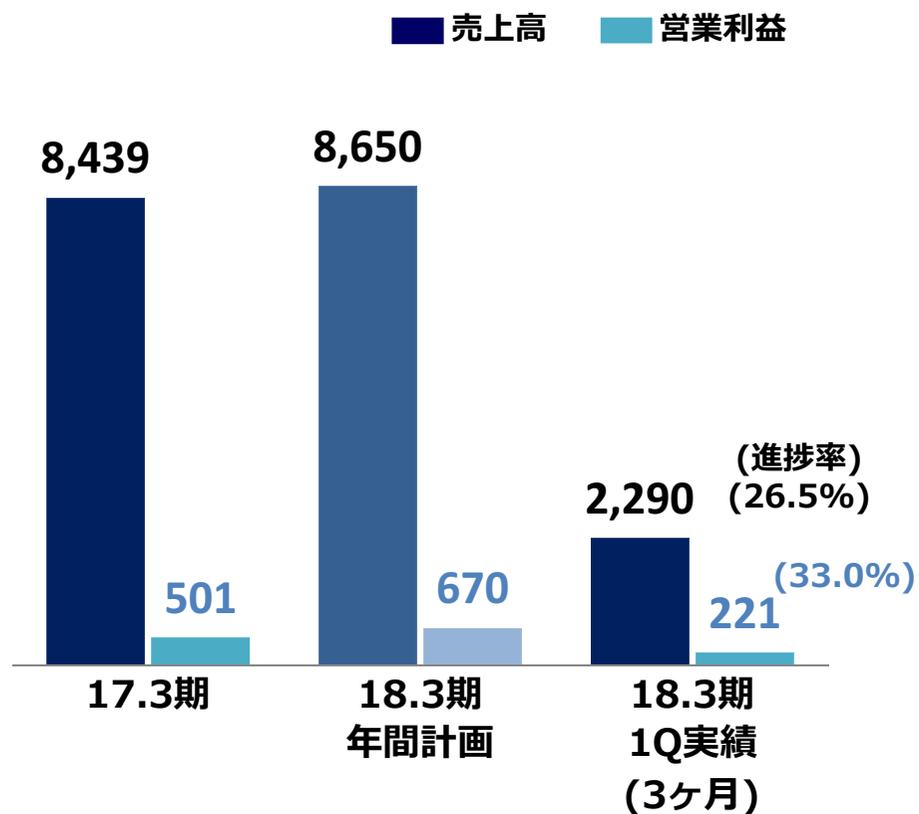
1. 売上規模拡大
2. コスト低減・収益拡大
3. 事業領域・個人領域の拡大

## 連結売上高・営業利益推移 (百万円)

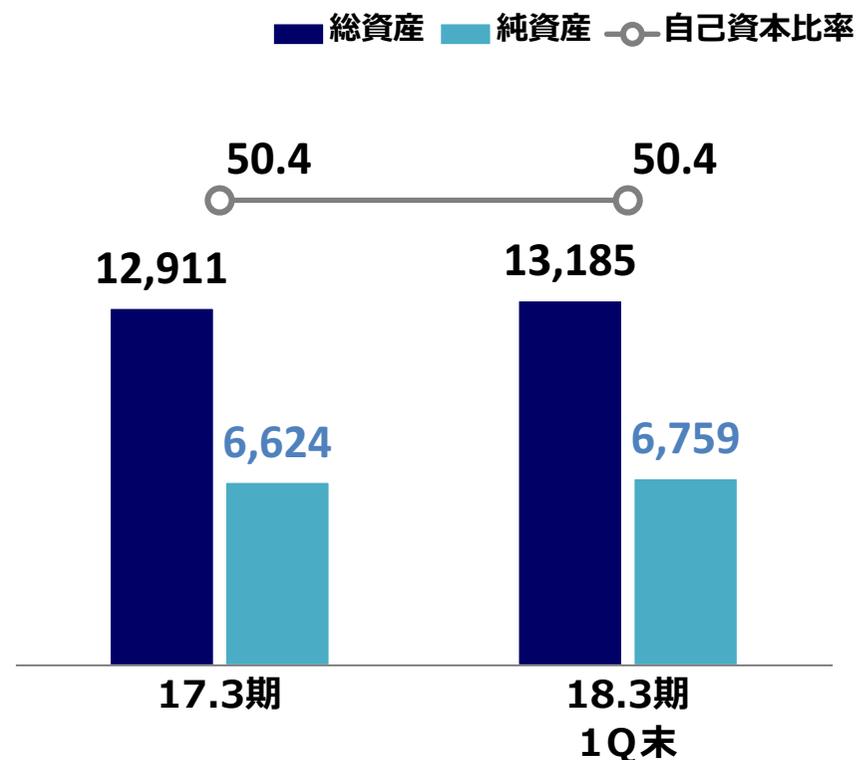


# 今期、足元の業績は堅調に推移

## 売上高・営業利益 (百万円)



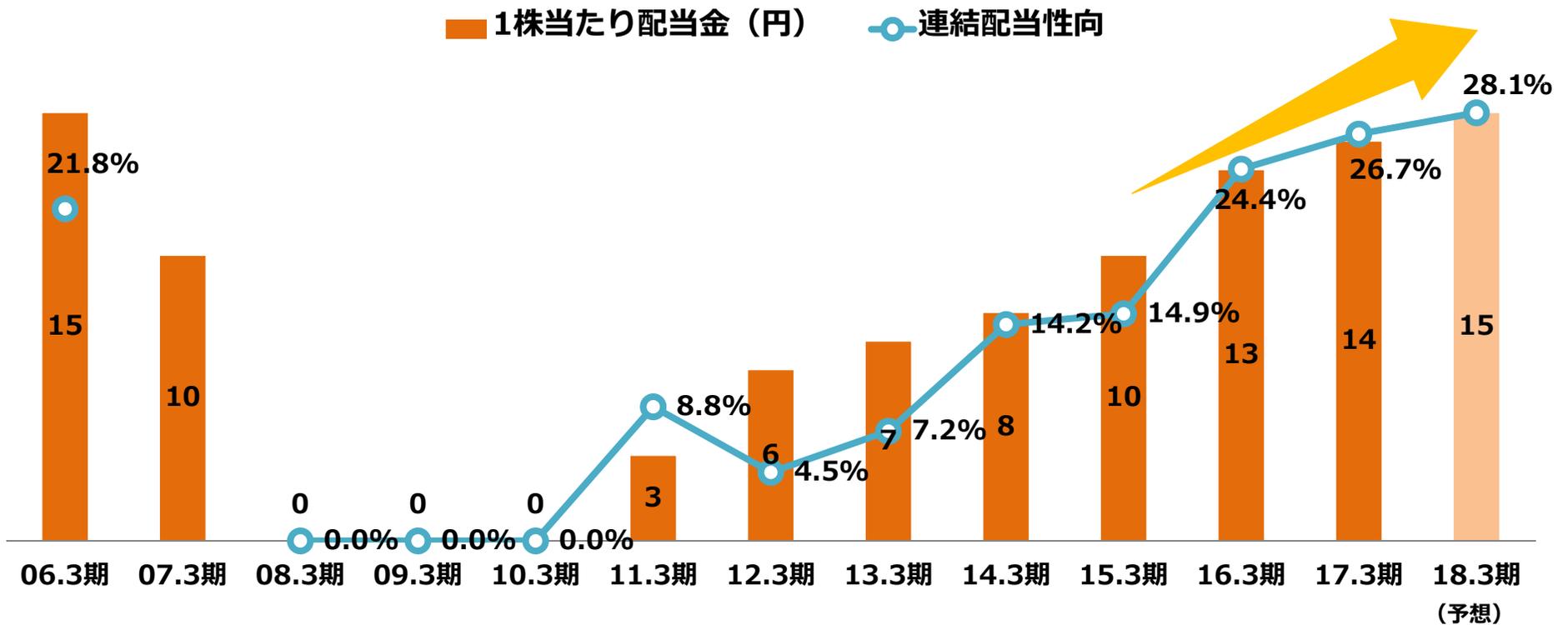
## 総資産・純資産 (百万円、%)



Q5

# ニッキの株主還元策は？

## 連結配当性向30%を目標



※07.3期は赤字のため連結配当性向は算出不可

# 和田社長ってどんな人？



取締役社長 和田 孝 (わだ たかし)

1953年8月14日生まれ  
大阪府出身

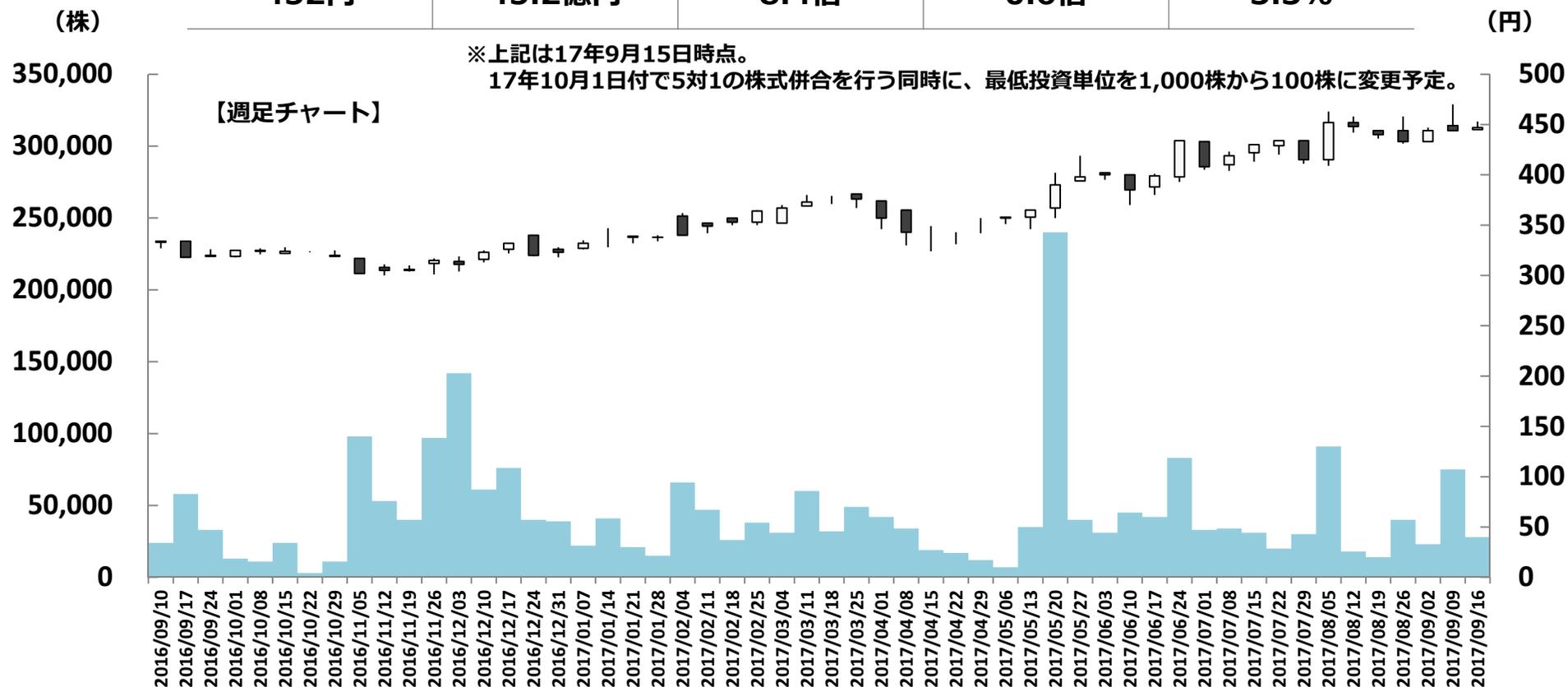
## ～経歴～

1978年3月	東京大学法学部卒業
1978年4月	株式会社横浜銀行入行
1985年9月	ペンシルバニア大学ウォートン校卒業
2004年3月	株式会社横浜銀行退社 当社入社
2004年6月	当社取締役営業部長
2005年2月	NIKKI AMERICA,INC社長
2007年6月	当社取締役社長 (現職)

## ～趣味～

テニス・ウォーキング

株価	時価総額	予想PER	実績PBR	配当利回り
452円	45.2億円	8.4倍	0.6倍	3.3%



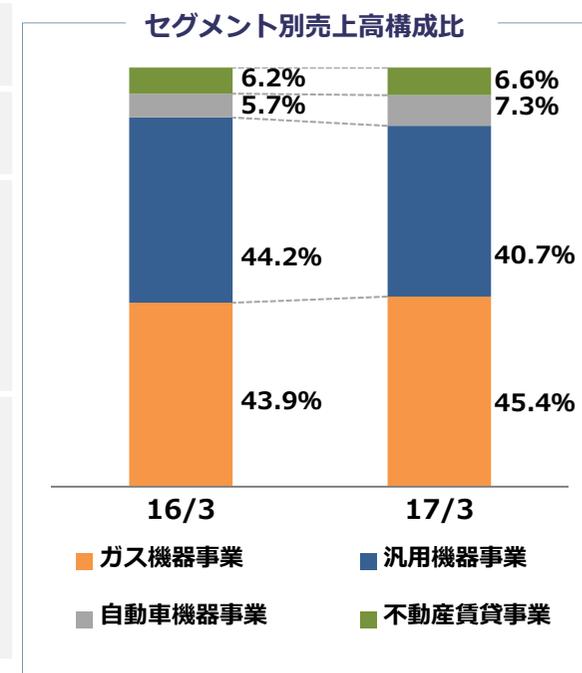
ご清聴ありがとうございました。

---

# 参考資料

## 「ガス燃料供給システムで環境へ貢献」

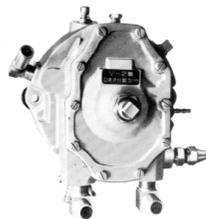
商号	株式会社ニッキ
所在地	神奈川県厚木市上依知3029番地
資本金	500百万円
代表者	取締役社長 和田 孝
設立	1932年2月
従業員数	606名（連結ベース、2017年3月末）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ LPG・CNG・LNG燃料供給システムの設計・開発及び関連機器の製造</li> <li>■ 船舶・小型エンジン用気化器及び燃料関連デバイスの設計・開発及び製造</li> <li>■ 自動車用燃料関連デバイスの設計・開発及び製造</li> <li>■ 不動産賃貸事業</li> </ul>
関係会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ NIKKI AMERICA FUEL SYSTEMS,LLC、NIKKI AMERICA,INC.</li> <li>■ 瀋陽日新気化器有限公司</li> <li>■ NIKKI INDIA FUEL SYSTEMS PRIVATE LIMITED、</li> <li>■ NIKKI KOREA CO.,LTD.、NIKKI(THAILAND) CO.,LTD.</li> <li>■ (株)ニッキ ソルテック サービス、ニッキ・テクノ(株)</li> </ul>



# 伝統から革新へ



芝刈機用  
U-22型キャブレタ



V3型  
LPGベーパーライザ



汎用電子制御噴射  
システム



インジェクタ



LNGレギュレータ



新型小型ECU

・1946年  
自動車・農業エンジン  
用気化器、燃料ポンプ  
を開発

・1963年3月  
自動車用LPGキャブ  
レーション装置開発

・1982年  
自動車用電子制御気  
化器、自動車用ス  
ロットルボディ開発

・1991年  
圧縮天然ガス燃料  
システム開発

・2006年  
汎用電子制御噴射  
システムの製造

・2014年  
LNG用1段式  
レギュレータ開発

・2017年  
新型小型ECU

・2009年  
ガス用トップフィード  
インジェクタ開発

・2015年  
熱交換器開発

・2001年  
LPG電子制御気体  
噴射システム開発

・2010年  
CNG用1段式  
レギュレータ開発

・1933年3月  
自動車・航空機工  
エンジン用気化器を開発

・1967年  
厚木工場を建設  
本社工場完成

・1985年  
船舶機用気化器を  
開発

・1932年2月  
創立

・1961年10月  
東証2部に上場



船舶機用  
キャブレタ



ECU



大型車用  
CNGレギュレータ



熱交換器



第1号キャブレタ  
NV-42

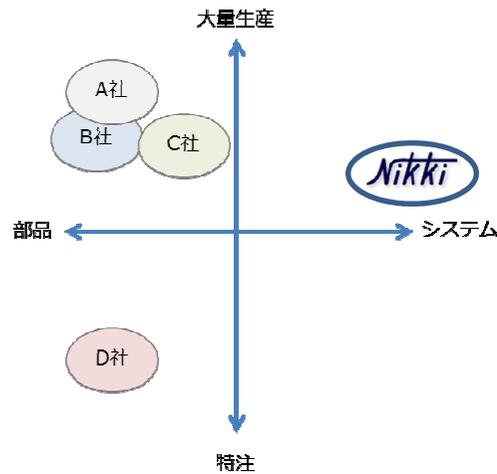
# 事業部門の構成と製品

事業セグメント	ガス機器事業	汎用機器事業	自動車機器事業	不動産賃貸事業
市場	東南アジアや東アジアへの輸出が中心。今後、北米、ロシア、インドネシア、中東等を開拓	米国向けが多く、芝刈り機・発電機用が約7割を占める。発電機需要の発掘、噴射システムの推進	東南アジア、中東への輸出	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京都品川区にオフィスビルを所有</li> </ul>
主要顧客	GM Korea、いすゞ自動車、日野自動車、広西玉柴機器、ユニキャリア	Briggs & Stratton Corporation、Kohler Company、川崎重工、SUBARU、Cummins Power Generation	日産自動車、トヨタ自動車、マツダ、江西いすゞ、WABCO、RANE	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定収益</li> </ul>
製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外のLPG・CNG車・フォークリフト向けの燃料供給システム（ECU、インジェクタ、ベーパーライザ、レギュレータ、熱交換器、フィルタ、ミキサ等）</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>汎用気化器（農業用、産業用）、船舶用気化器、二輪車向け噴射システム等</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外のガソリン車用のスロットルボディ、気化器、アクセルワイヤユニット等</li> </ul> 	
生産拠点	日本、中国、タイ	インド、中国、米国、日本	日本、インド	

# 当社の強み（1）

- ガス機器の燃料供給システムを構成する主要部品を全て製造可能
- 高出力・高精度性、燃費向上・排ガスクリーン化を実現する高い制御技術
- 様々な顧客要求にも対応可能な最新鋭の実験設備（開発アウトソーシングニーズへの対応）
- 系列に属さない独立系

ガス燃料供給システム  
会社ポジションマップ



当社の強み



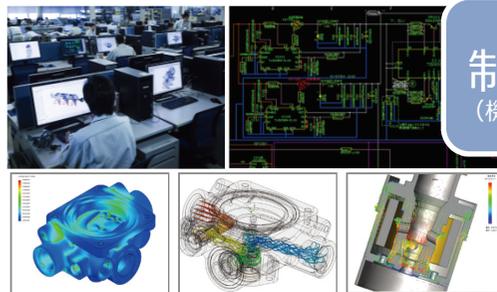
- ガス燃料に適した専用の燃料供給システムを製造
- 自動車・トラックメーカーへのOEM供給、受託開発
- 世界各国の顧客の幅広いニーズに対応（後改造用製品も供給可能）
- IoTを活用した効率向上

生産

Nikki

制御技術  
(機械・ソフト)

実験設備  
(開発・検査・検証)



# 当社の強み（2）

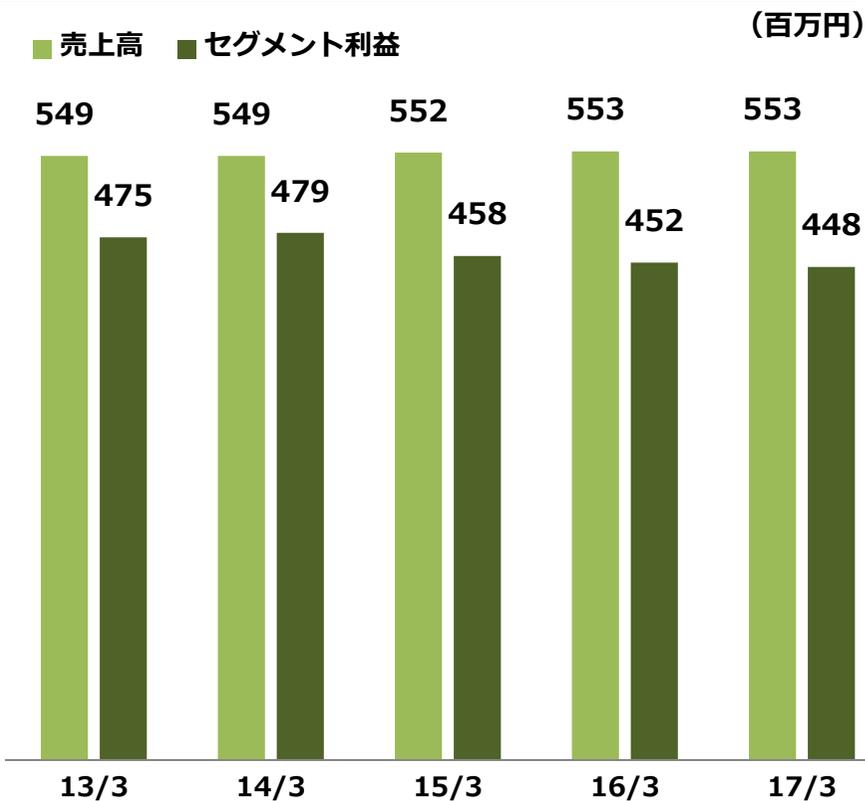
## ■ 保有不動産からの安定収益

### 保有資産の概要

名称	3号館ビル
所在	東京都品川区北品川5-11-3
土地面積	4,959.08㎡（うち62.0%）
建物構造	鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根地下2階付8階建
建物延床面積	20,582.71㎡（うち62.0%）
竣工年月	1996年10月



### 不動産賃貸事業推移



## 2018年3月期第1四半期末 連結貸借対照表の概況

(単位：百万円、下段は構成比)

		2017年3月期末	2018年3月期第1四半期末		主な増減要因
				前期比増減額	
資産合計	流動資産	6,450 (50.0%)	6,682 (50.7%)	+231	【流動資産】 ・現金及び預金 +213 ・受取手形及び売掛金 ▲143 ・その他 +105 【固定資産】 ・投資有価証券 +154
	固定資産	6,460 (50.0%)	6,503 (49.3%)	+42	
		12,911 (100.0%)	13,185 (100.0%)	+274	
負債・純資産合計	流動負債	3,903 (30.2%)	4,051 (30.7%)	+147	【流動負債】 ・支払手形及び買掛金 ▲62 ・電子記録債務 +40 ・賞与引当金 ▲61 ・その他 +237 【固定負債】 ・退職給付に係る負債 ▲45 ・その他有価証券評価差額金 +107 ・利益剰余金 +57
	固定負債	2,382 (18.5%)	2,374 (18.0%)	▲7	
	負債合計	6,286 (48.7%)	6,426 (48.7%)	+139	
	純資産合計	6,624 (51.3%)	6,759 (51.3%)	+134	
	12,911 (100.0%)	13,185 (100.0%)	+274		
ネット有利子負債	▲215 (▲1.7%)	▲434 (▲3.3%)	▲218		

※ネット有利子負債 = (短期借入金 + 長期借入金) - (現金及び預金)

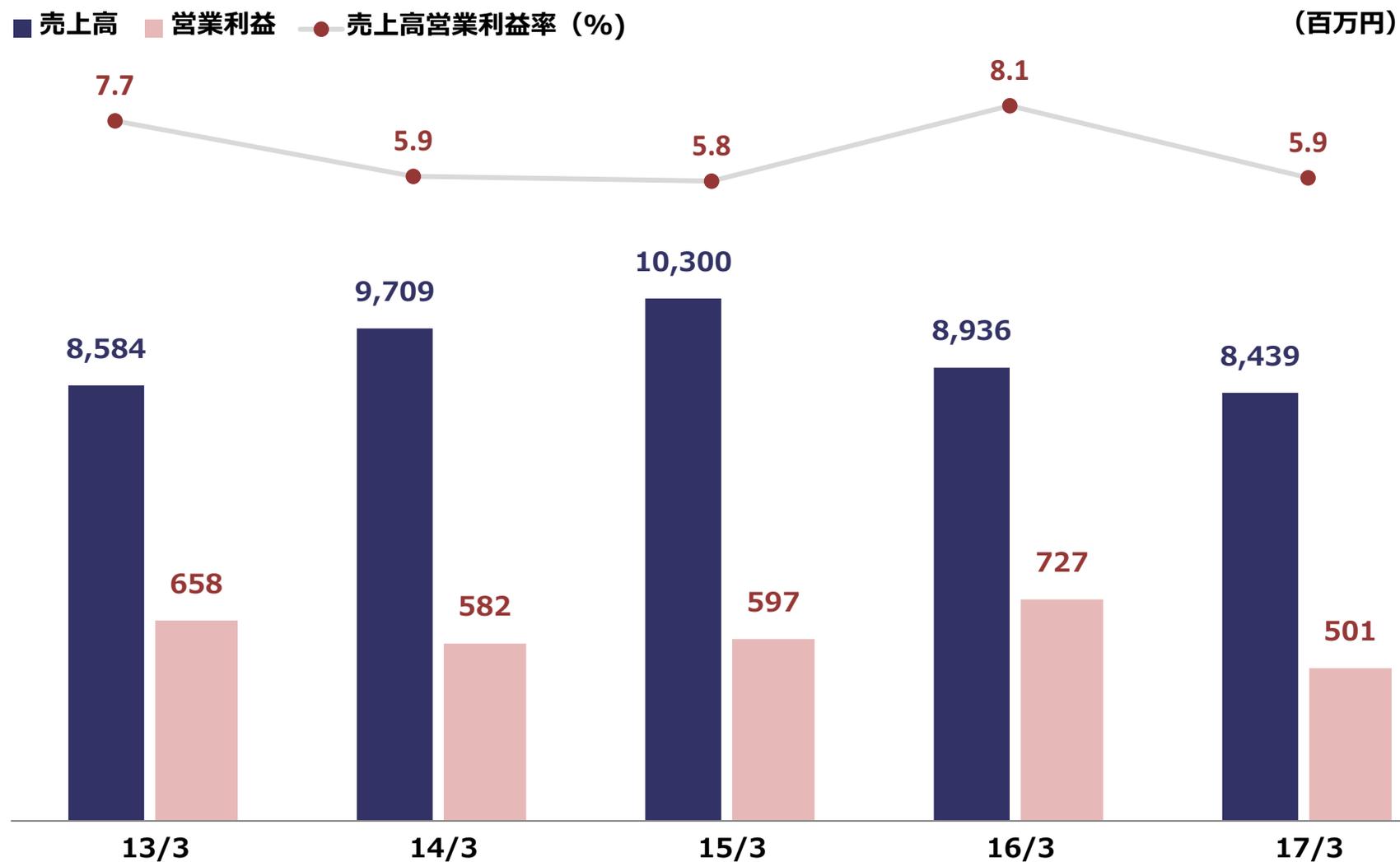
## 2018年3月期 連結損益の見通し

新たな市場・顧客の開拓も着実に進展しており、また、ずれ込んでいた新機種の上上げも予定されており、増収増益を見込む

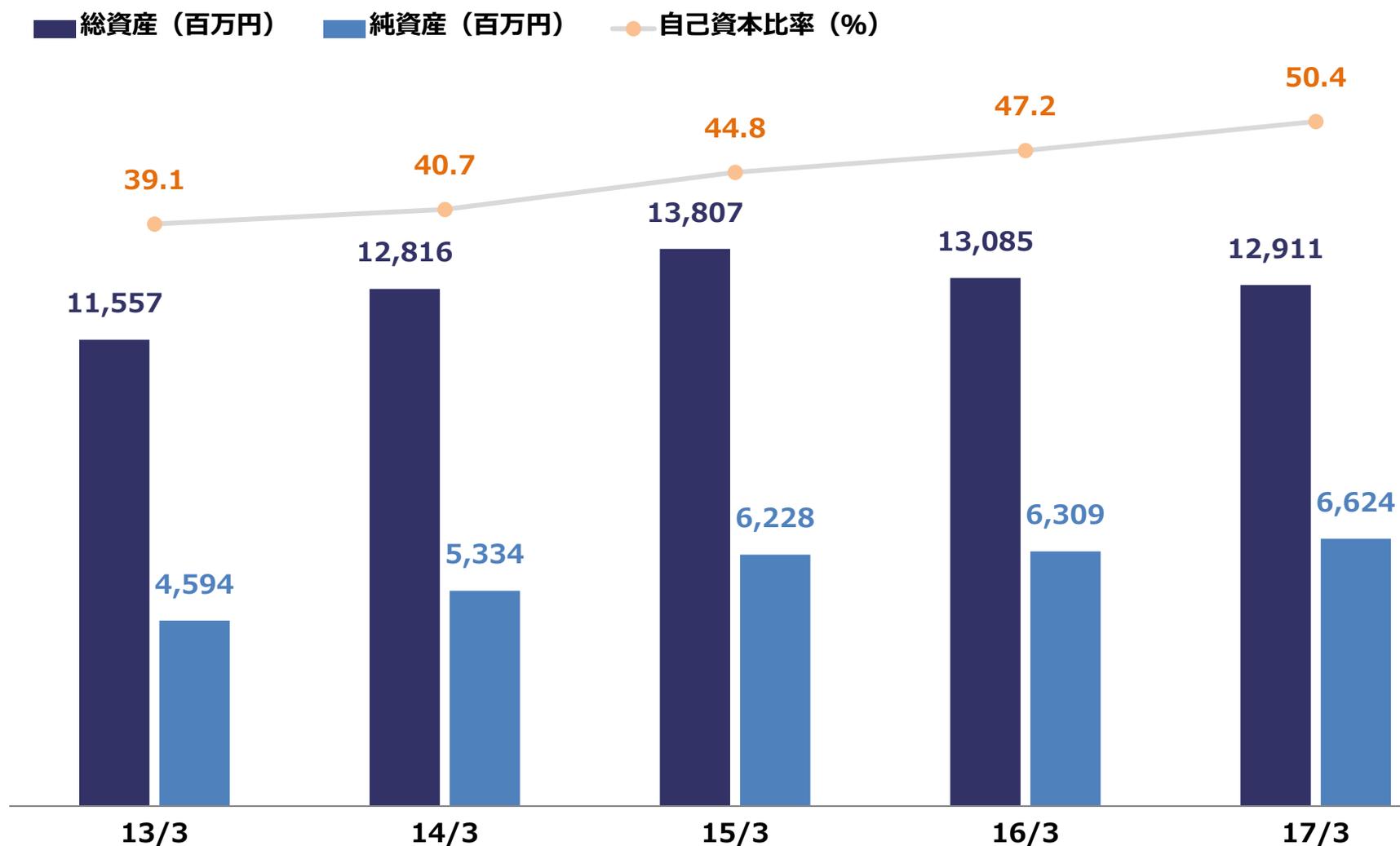
(単位：百万円)

	2017年3月期実績		2018年3月期計画		
		構成比		構成比	前期比
売上高	8,439	100.0%	8,650	100.0%	+2.5%
営業利益	501	5.9%	670	7.7%	+33.7%
経常利益	584	6.9%	630	7.3%	+7.7%
親会社株主に 帰属する当期純利益	492	5.8%	500	5.8%	+1.6%
設備投資額	495	5.9%	440	5.1%	▲11.1%
減価償却費	793	9.4%	720	8.3%	▲9.2%

# 連結業績推移 (1)

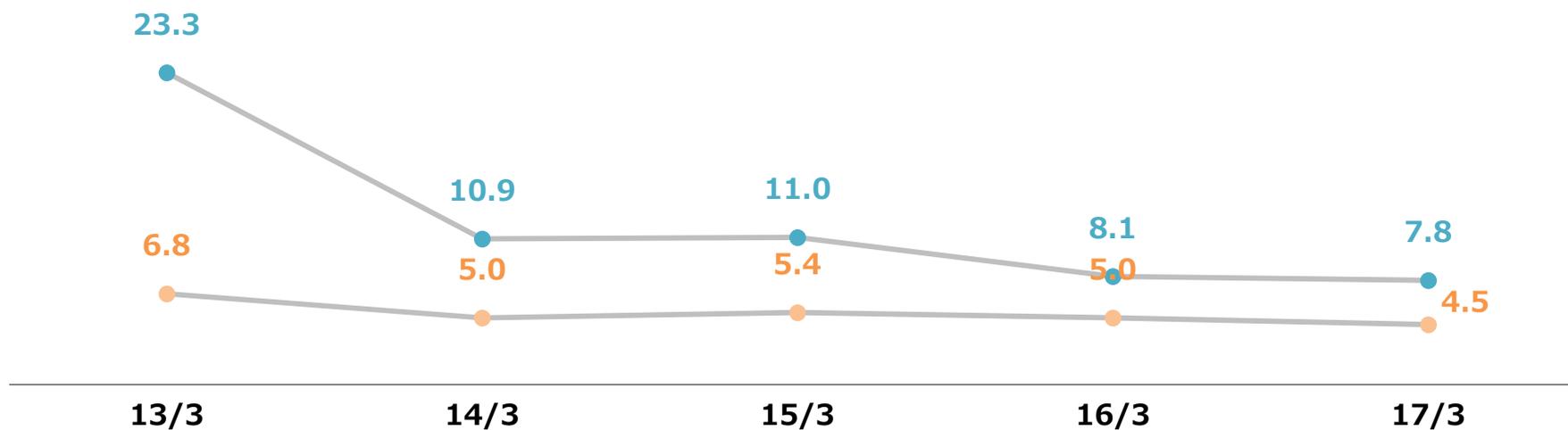


## 連結業績推移 (2)

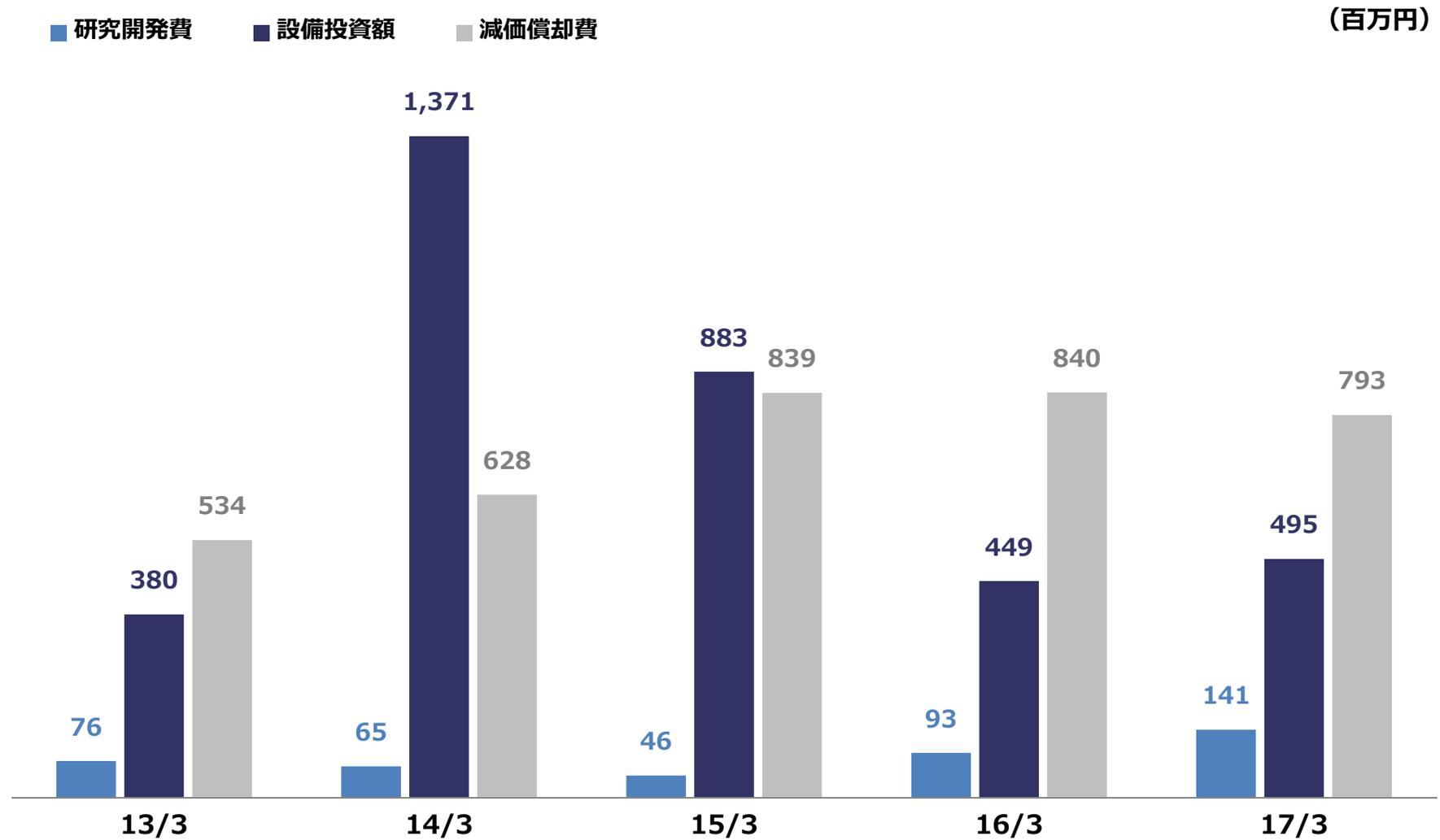


# 連結業績推移 (3)

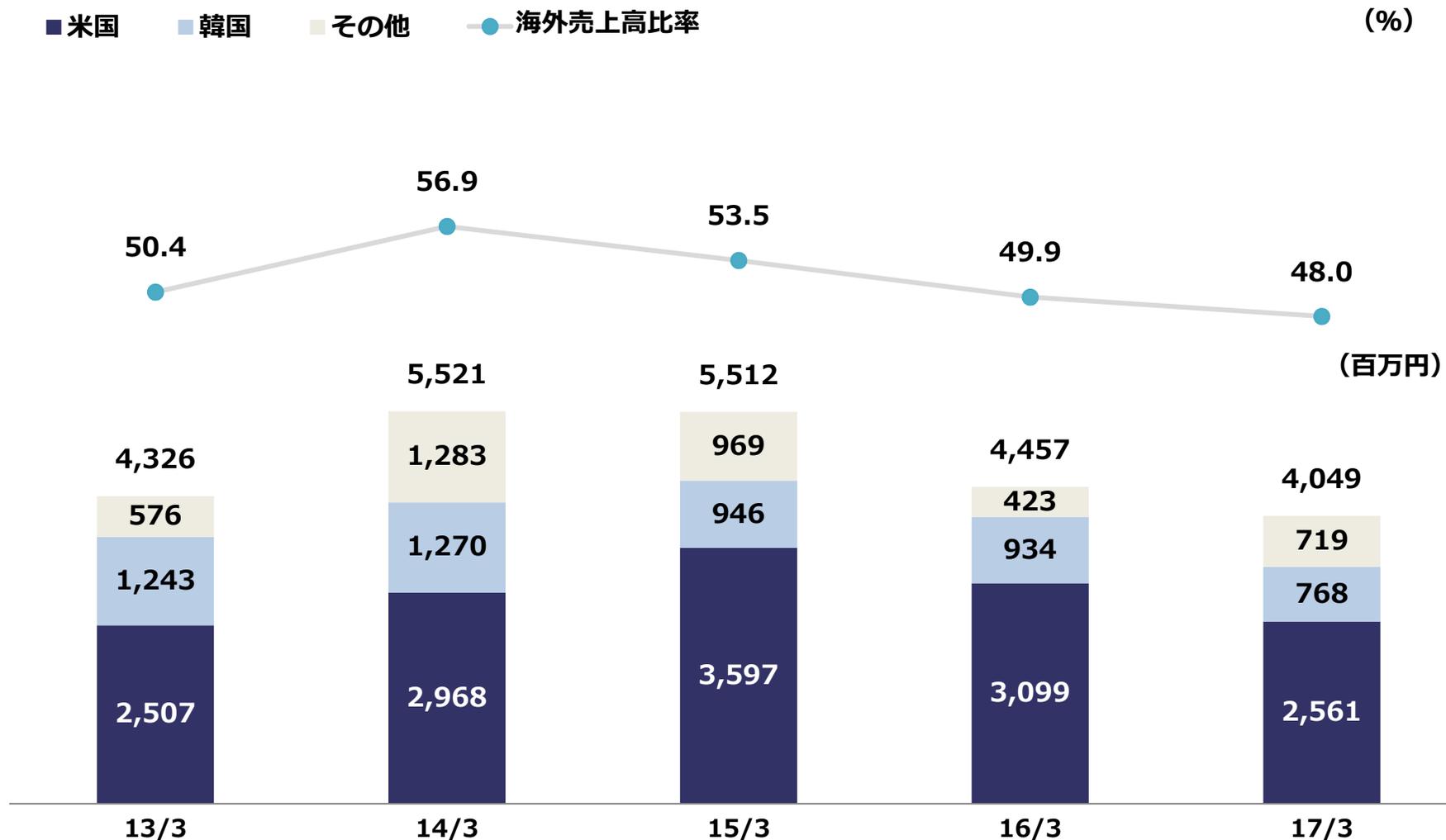
● ROE (自己資本当期純利益率)      ● ROA (総資産經常利益率)      (%)



# 研究開発費・設備投資額・減価償却費の推移



# 海外売上高推移



## 『ニッキフィロソフィ』の策定

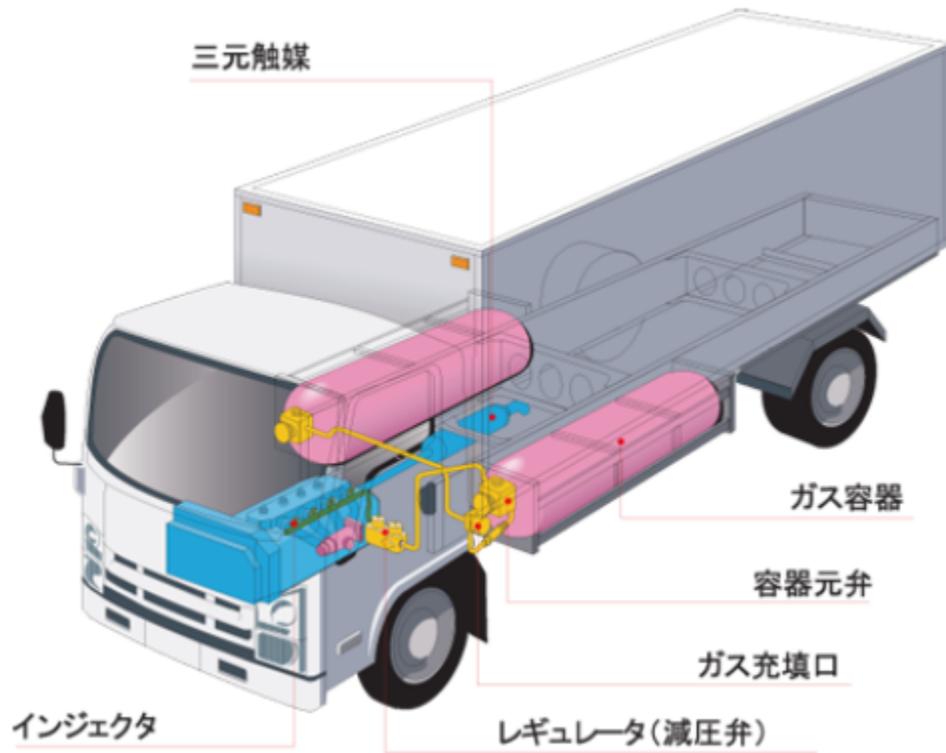
---

ニッキグループのメンバー全員が、あらゆる行動の基本として、大事に思い追求していく考え方として、ニッキフィロソフィを定めました。

1. 多様化するエネルギー資源の有効活用に役立ち、環境保全に寄与する燃料供給システムの開発・製造を行い、社会に貢献する。
2. 品質、性能、価格の基準だけでなく、プラスアルファの付加価値を増強する。  
グローバルなステージでのお客様や市場との率直な対話、コミュニケーションの実践と深化を通じて、商品・サービスに新たな価値を付与する。
3. 勉強しよう、成長しよう。  
たゆまぬ挑戦を継続実践し、事業活動を通じて一人一人が成長し、共に成果を確かめ合い、充実感を味わおう。

# (ご参考) 天然ガス自動車の構造と特徴

天然ガス自動車（CNG車）の構造（トラック）



出所：日本ガス協会

	利点	欠点
CNG/LNG車	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料費が割安</li> <li>環境負荷が小さい</li> <li>パワーが強い</li> <li>LNG車はCNG比で航続距離が長い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料充填施設が限られる</li> <li>車両価格がやや高め</li> </ul>
HV/EV車	<ul style="list-style-type: none"> <li>モーター駆動時は環境負荷が最も小さい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワーに制限あり</li> <li>充電施設が限られる</li> </ul>
ディーゼル車	<ul style="list-style-type: none"> <li>給油場所は十分にある</li> <li>パワーが強い</li> <li>車両価格が安い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>窒素酸化物などを排出</li> </ul>

CNG (Compressed Natural Gas) 車：

天然ガスを気体のまま、高圧 (20MPa) でガス容器に貯蔵する車両

LNG (Liquefied Natural Gas) 車：

天然ガスを液体状態 (-162℃) で、超低温容器に貯蔵する車両

- 
- 本資料は株式会社ニッキ（以下、当社）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
  - 本資料には当社の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。
  - また、経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社ニッキ 総務部経理課

TEL : 046-285-0228 / E-mail : ir@nikkinet.co.jp